

地域別
特徴の
まとめ

土岐市は地域ごとで、作っている
やきものに特色があったんじゃ！

地域ごとの分業化を調べるため、平成30年10月号から平成31年3月号まで6町6社の窯元にお話を伺ったのじゃ。
各町で作るものは違えど、共通する歴史が分かったぞ。



いろいろな種類の器が
私たちのまちで
作られてるんだね。



Point1

大正、昭和初期
専製権により進んだ分業化

粗製乱売防止のため、美濃陶磁器同業組合より地域ごとに専製権が与えられました。また、それ以前からある風土・歴史から生産品目が決定されました。

(※)専製権 = 一種類の器を専門に製造できる権利

Point2

現在
時代に合ったやきもの生産へ

専製権は廃止され、分業化で得たノウハウを生かした窯元や、生産品目を変えたり種類を増やしたりする窯元が、時代に合った製品を世に送り出しています。

Point3

「やきもの生産 日本一」を支えている!!

土岐市内だけでどのようなニーズにも対応でき、多様な製品を作るノウハウがあります。

「博士のみのやき研究所」で検索してね。
バックナンバーを見ることができます。



私たちのまち・土岐市は
やきものまちです。『みの
やき博士』『みのやき志野
ちゃん』と一緒にやきもの知
識を学んでいきましょう

美濃焼振興室
(☎08312)

市長の部屋から

3月2日(土)

新庁舎の完成を祝い、地域住民や工事関係者などを招いて落成記念式典を行いました。式典後はお披露目会として一般に公開し、多くの皆さんが見学に訪れました。



竣工以来53年が経過した旧庁舎は老朽化が進み、耐震診断では倒壊やその危険性が示され、バリアフリー化などの対応も限界に達していました。

新庁舎の建設は、こうした問題の解決だけでなく、今後の本市まちづくりの先導的な役割を果たし、未来へと受け継いでいく庁舎とするため、機能性、利便性、安全性など多角的な視点から整備を進めてきました。

この度、長年の懸案であった大事業が落成を迎え、皆さんの交流・活動の場として大いに利用していただけることを期待しています。そして、この素晴らしい庁舎で、より質の高い市民サービスの実現に向けて、職員一同、全力で職務に取り組んでまいります。

土岐市長 加藤靖也

